

高松市立檀紙小学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、自ら考え実行し、たくましく生きる児童の育成

【本校の課題】

- 運動能力や体験の2極化が進んでおり、学年が上がるにつれてこの傾向が強い。
- 経験年数が少ない教員が増えているため、校内での研修の機会を保証し、教師力の向上を図る。

【現状】

休み時間等には元気よく運動場で遊んでいる児童が多く見られる。昨年の学校保健委員会では、約2割の児童が1週間ほとんど体を動かしていないことが、アンケートから分かった。家庭においてもゲームを行う児童が多く、外で遊びを通して運動する機会が十分に確保できていない。体育の授業においては、新型コロナウイルス感染防止対策のため、かなり制限を受けるので、質のよい活動内容を考える必要がある。

【取組み】

運動環境の整備

各クラスにドッジボールと長縄を配付し年間を通して運動に親しめるようにしている。

サッカーゴールや縄跳び用のジャンピングボードを3学期に設置し、運動環境の整備を行う。

月2回ロング昼休み（清掃時間を無くし、昼休みの時間を長くする）の時間を確保し、遊びの中で体力向上をめざす。

多様な運動の機会の設定

夏季休業中に各学年の発達段階に合わせた種目（ブリッジ・背支持倒立・一輪車等）のプリントを配布し、体力づくりとして運動に取り組む。

柔軟性、バランス感覚などを養える簡単な動きを取り入れ運動能力の向上をめざす。

経験の浅い教員の指導力向上

高松市の体育部会が長年にわたって作成してきた「こつ伝授」などを紹介し、効果的な指導方法を学ぶ機会を設定する。

若年教員の研修に合わせて時間を確保してもらったり、主任から積極的に声かけをしたりして、少しでも子どもたちが楽しく取り組める教材研究が行えるよう助言やアドバイスを行う。

【目標】

- 休み時間等に外で体を動かさない児童の割合を令和5年度までに、15%に減らす。
- 体育部会作成の「こつ伝授」などを紹介し、若年教員の指導力の向上を図ることで、児童に質のよい活動を提供する。
- 運動場等で元気に遊ぶ時間を保障することで、集団の中で自分を発揮するたくましい児童を育成する。（ロング昼休み）